

第2章

【その2】 open play 展開継続 running handling game である

ラグビーは open play の展開継続が楽しさの源泉であることは明確です。この明確な認識の元に自由奔放に戦う中でボール獲得側優先の確保するよういろいろと工夫、配慮がなされています。open playこそラグビーの醍醐味であり面白さの重大な要素です。

数の多い例としてタックルについて言うならば Rugby School において Ellis 少年がボールを持って走ったのが「最初の攻撃プレー」であり公平を保つ彼を捕えること（タックル）は「最初の防御プレー」です。この両方で equal condition が成立した分けです。以後永い歴史とプレーの変遷を経て今日に至っています。現行のルールはタックルについては第14条^(*)に整理し順序立てて規定されています。数が多く細かいのに驚く位です。現行ルール第14条はいろいろな状態を細かく分解し解決する工夫がなされています。ルールは何とかなしてプレーが続けるようにそれも open 展開をなさいと指示しています。その方が面白いからです。楽しいからです。勝利もついてきます。equal condition と safety についての意図も読めば読む程明確に分かります。予備知識として交通信号について考えてみますと青は進め、赤は止まれ、黄は赤になる前提として止まる意識が求められます。ラグビーのルールは青と黄+赤と認識し実行することが要件です。禁止事項があってペナルティが科せられる文言になっていますがルールは留意停止行動により反則が起こらないように求められていることを忘れてはなりません。'The History Of The Laws Of Rugby Football'の序文の「no rule game」の文言はその思想の原点です。equal condition、open play、safety は双方が同等に守ることによって成立するものです。最近注目されている jackal（ジャッカル）は攻撃側が捕まってももう少し前進（あばれる）しようとするところでボールを持っているプレーヤーからボールを奪いとうとする双方 equal な意志と行動から起ることで equal な状態から成立するものです。

*1 <https://laws.worldrugby.org/?law=14>

open play 展開の継続を支援する象徴的なものとして advantage rule があります。競技規則第7条アドバンテージ^(*)を開いてみて下さい。レフリーに競技が流れるようにするための権限を与えています。そしてアドバンテージのルールを適用する場合とアドバンテージが終了する場合とアドバンテージが適用されてはならない場合が列挙されています。プレーヤーはレフリーが競技を流れるようにするために一生懸命努力していることを認識しなければなりません。プレーヤーはレフリーが kickoff と try と no side 以外笛を吹かなくてもよいようにプレーしなければならないのです。いくつかのプレーについて open play 継続策を考えていきましょう。

*2 <https://laws.worldrugby.org/?law=7>

キックオフはキックする側は 10m 飛ばなくてはならない。受ける側は 10m 退いてなくてはならない。草創期バスケットボールのように中央でボールを獲り合って始めた時代もあったのです。10m ラインのなかった時代もあったのです。

ラインアウトはボールの獲り合いの混乱が続きました。解決してボールキャッチ一本に絞って考えた時に高さが勝敗の分かれ目で背の高い人有利な状況づくりとして lift（高さ確保のためキャッチャーとサポーターによる共同作業）を認めることにしました。

スクラムは「クラウチ」、「バインド」、「セット」でボールの獲り合いを整理し open play への誘導を図ったことは equal の章で述べましたが相手の open play を阻止する防御ラインの変遷も顕著なものがあります。ボールが前進すれば有利、後退すれば不利という基準から有利・不利の境界はボールの線（ゴールラインと並行）と考えま

した。その線より前に出れば **offside** になります。以前はスクラムでボールを獲得した側がスクラムの第一列から第三列へと足で送って行って外へ出して **open** 展開するわけですが相手側はスクラムハーフを始め **FW** の三列のプレイヤーはスクラムの中央線を越してボールの線まで出て防御体勢をとれるルールでした。**open play** の芽を摘んでしまうプレーです。現在のルールと比較してみてください。スクラムの最後尾のプレイヤーの足の線が境界になっています。プレイヤーはスクラムの間オンサイドの位置にとどまりスクラムハーフも制限が加えられています。

ラックではボール獲得が明確になった時点でレフリーが「**use it**」と声をかけて **open** 展開を促します。

モールでは組んでじっとしたまま 5 秒経てば笛が吹かれます。ボールの獲り合いはそれまでにして **open** 展開しなさいということです。

タックルではタックルされた人はボールを放し、ボールから離れることが第一とされてきました。これに変わりありません。

オープンサイドにいる **wing** (または **center**) の前にキックしてパスした時のように攻撃を続行するプレーが多く行なわれるようになりました。虚を突く点で面白いものです。

日本語のルールの中で「直ちに」という表現がよく出てきますがこの言葉は **equal** や **open** 更には **safety** に関わる数少ないものです。英語では **at once**^(*) と **immediately** の二つに使い分けられていることに注意しましょう。**at once** は時間的にすぐにとという意味です。**immediately** は他の事は一切しないで直接そのことをすぐにとという意味です。**equal condition** 保つための「直ちに」**open play** を継続するための直ちに事故を防ぐ **safety** を確保するための直ちにともう一つ時間を浪費しない直ちにあるわけです。

*3 2018 年の競技規則から「**at once**」の表現はなくなりました。ラグビーや競技規則の歴史上必要と考え、記載します。

2020/06/28
西川 義行